



坂口 憲一郎「鎮魂と平和の旅」2016-2024



2016年2月～

「鎮魂と平和の旅」の始まり



2016年4月3日

Kinko Music FAMILY CONCERT 2016



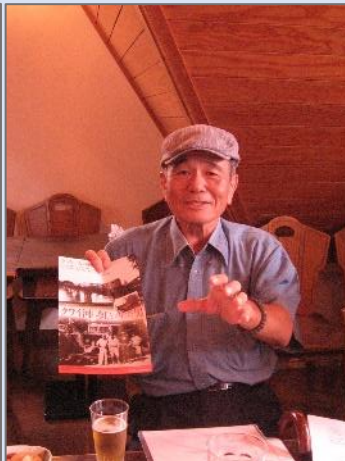
2017年5月：東京靖国神社

「ハソウ吹奏 奉納演奏」



2016年9月7日(水)：東京都

紫蘭会“山を歌うコーラス”の皆様と歌う「鎮魂の歌」



2017年8月5日：横浜「英連邦戦没者追悼礼拝」

～2017年8月5日、英連邦戦没者追悼礼拝に参加して～

坂口 憲一郎（岡山県岡山市）

毎年、8月の第一土曜日、午前11時から、横浜市保土ヶ谷区の英連邦墓地で、英連邦戦没者追悼礼拝が開かれる。ここには、太平洋戦争中、日本軍の捕虜となり、日本で亡くなった英連邦捕虜、1873人が眠っている。追悼礼拝は、戦後50年の1995年から毎年開かれ、今年で、23回目。

私は、岡山に居を移してから、参加の機会が少なくなったが、第一回から、幾度も追悼礼拝に参加させていただいている。追悼礼拝を立ち上げた永瀬隆さん、斎藤和明さん、雨宮剛さんから、戦争と平和について、多くを学ばせていただき、番組を通じて活動を紹介させていただいた。

今は、、、永瀬さん、斎藤さんも亡くなり、雨宮さんも体調が万全ではない。追悼礼拝も、当初、中高校生や大学生などの参加者も多く見られが、今年の参加者に、若者が、少ないと感じた。

この20年を超える年月に、、、墓地の緑が、いっそうボリュームを増した。手入れの行き届いた広大な芝生の墓地に立つと、赤とんぼが群れ飛び、大都会の中にいることを忘れさせてくれる。

11時から、追悼礼拝は、しめやかに始まった。讃美歌、追悼のことば、英連邦大使館各代表の挨拶、、そして第1回から追悼の辞を述べている牧師、関田寛雄さんのお話の後、讃美歌を歌い式は終わった。100人を超える参加者は、それぞれの国の墓地をめぐり、平和の願いを込め、献花と祈りささげた。ここに埋葬された一人一人の墓碑プレートを見ると、、、10代の若者もいて、若い方が多い。先日、釜石艦砲の取材で伺った釜石には、戦時中、500人を超える捕虜が居たという。埋葬者の中には、釜石の艦砲射撃で亡くなられた方もいるという。一つ一つの墓碑を見ていると、戦争がもたらす悲しみがこみあげてくる。戦争のむごさが浮かぶ。

今回、私は、鎮魂の笛壺「はそう」を持参した。キリスト教の墓地には不似合いかもしれないが、迷惑にならないよう、静かにハソウを吹かせてもらった。追悼礼拝を立ち上げた、、、亡き、永瀬隆さんと斎藤和明さんへの思いと、平和の誓いを胸に、静かに、長く吹かせて頂いた。



2016年7月6日(水):盛岡市
「東日本大震災5年を振り返る」
講演「鎮魂の歌」と共に歩むハソウ
講師 坂口 憲一郎

2016年10月6日「備前交流会」 2017年10月29日:京都市
「鎮魂の歌」YOUTUBE: Kinko Music FAMILY CONCERT2017
<https://youtu.be/EgR04TMw8S0>



2017年10月30日:岡山市
岡山女声コーラスの皆さん



2018・2019年8月:岡山市
夏祭「わたしたちの音楽」参加



2018年3月18日 岩手上映会&トーク
ドキュメンタリー「クワイ河に虹をかけた男」



2018年7月22日：東京 「小松左京7回忌の集い」



2018年9月1日 — 京都ロームシアターで「鎮魂の歌」演奏 —

— 京都ロームシアターで「鎮魂の歌」演奏 —

YOUTUBE : <https://www.youtube.com/watch?v=FLeBd4Sxh4>



2019年12月7日：東京

「盲導犬チャリティーコンサート」



岩手県釜石市立 唐丹小・中学校訪問

～キャロル・サックさんと共に二回 訪問～

★ 友情の証の歌「I, YOU, WE」: <https://www.youtube.com/watch?v=GWB1O7Lgrt8&feature=youtu.be>

2016年12月15日クリスマス慰問

『鎮魂の笛壺』を中学生3人と共に

坂口 憲一郎



煌々とした満月が、一夜明けたら、真っ白な墨絵の世界。

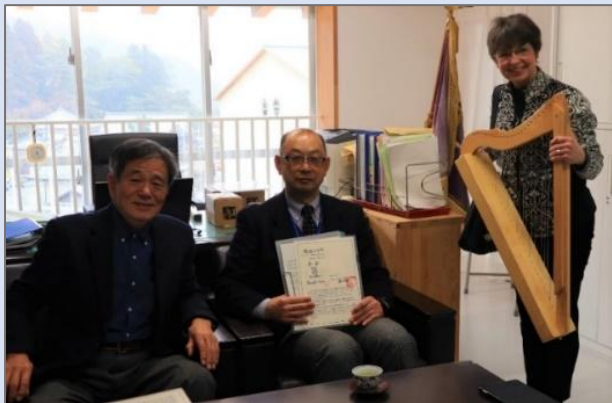
12月15日、雪景色の中、盛岡から3時間余りのドライブで、初めての唐丹小・中学校訪問。感動的なクリスマス会でした。

心に残ることがいくつかありました。唐丹小中学校の「はぐるま教室」には、120人ほどの児童、生徒、先生方が集まっていました。最前列には小学一年生。きちんと姿勢を正して行儀よく座っていました。高舘さんが、前に出て「こんにちは」と挨拶をすると、間髪を入れず、生徒達から「こんにちは」と元気な声が返ってきました。私の目の前の一年生達も大きな

声で「こんにちは」と声を響かせました。その声に、まず感動。声から受けたパワー。声が生きていました。私も元気なエネルギーをもらいました。一年生達の目が生き生きとしています。支援者たちからのマグカップとクリスマスケーキの贈呈の後、「鎮魂の歌」とキャロル・サックさんの歌「I, YOU, WE」の歌が歌われました。キャロルさんの指導で、英語の歌詞 “ BUT WE ARE FRIENDS…” “を2回ほど練習し、いよいよ本番。キャロルさんが静かにハープを奏

で歌い始め、コーラス部分では、参加者みんなで、英語で歌う。初めてとは思えぬ見事なコーラスでした。英語の歌詞を上級生たちと歌う小学1年生達に、またまた感動。それにしても素敵な歌だ。キャロルさんのハープにぴったり歌。素直な気持ちになり心が洗われる歌だ。わずか30分のクリスマス会が、笑いと緊張感であつという間に終わりました。もちろん「鎮魂の笛壺」も中学生3人と共に一吹きさせて頂きました。

2019年3月7日 ハソウ贈呈のため唐丹中学校訪問：[104tushin.pdf \(eec-2020.com\)](http://104tushin.pdf(eec-2020.com))



ハソウ贈呈で唐丹訪問

坂口 憲一郎



唐丹小中学校を初めて訪問したのは2年前のクリスマス慰問でした。あの時の子供たちの目の輝きに感動したことは今も目に焼き付いています。今回は二度目の訪問になりますが、前回と同じように生徒たちの澄んだ瞳の美しさに感動しました。11時30分頃、学校に着き、昼食までの1時間ほど校長室で待つことになりました。先ず目についたのは、ホワイトボードに貼ってある釜石新聞の記事で、大きな字で「NHK 全国 短歌・俳句大会で最高賞・きょう E テレで全国放送」という見出しでした。つかさず、「この記事は2年生の上野翔明君の記事ですね」と尋ねると、菊地正道校長先生はこの1年間の学校報「不撓不屈」を見せてくださりながら、生徒たちの活躍ぶりを、次々話してくださいました。3年生の留畑瑞穂さんも『JIKA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテス 2018』で優秀賞に輝いたことやスポーツ大会での数々の輝かしい成果をお聞きしました。あの震災を乗り越え、皆で助け合って学校生活を送った中で目覚ましい成果をあげた生徒が多くいる事を知り、驚きと同時に目を見張るものがありました。12時30分頃、二人の生徒が校長室に入ってきて、給食会場に案内をしてくれました。多目的ホールに入ると大きな拍手で歓迎を受け、生徒に交じって食事をいただきました。全校生徒・教職員合わせて55名ほどが一緒になっての昼食を家族的で和やかな雰囲気の中で大変美味しく頂戴しました。ごちそうさまでした。午後は体育館で今年の卒業生12名に「ハソウ」と「ハソウ継承者証書」を贈呈させていただきました。キャロル・サックさんが奏でるハープに合わせて高館さんが「ハソウの祈り」を朗読した後に代表者に「ハソウ」を贈呈させていただきました。キャロル・サックさんが唐丹の子供たちへ送った歌「I, YOU, WE」を、ハープを奏でながら歌うのに合わせて、私も一緒にハソウを吹かせていただきました。西洋の楽器ハープと古代の和楽器ハソウが一つに溶け合い、歌詞「But we are friends, but we are friends, Friends in the human family.」の思いが心に沁みってくるのを感じました。世界各地で紛争が絶えず、ハソウが「平和へのメッセージ」になればと思います。

◆2021年3月 唐丹中学校全生徒にハソウを寄贈



2023年10月21日唐丹小中学校文化祭訪問

「唐丹小中学校訪問記」

坂口憲一郎（岡山県）



唐丹希望基金が遺したものは、大きい。大災害にやむにやまれず、一人の女性が基金を立ち上げ、その思いが、全国から世界に広がったのだ。唐丹を、初めて訪れたのは、雪で真っ白、、、寒々とした日だった。心に残っているのは、児童の元気な挨拶。目がキラキラとしている。一人一人が困難を抱えているにもかかわらず、その一瞬が、生き生きとしている。児童たちのエネルギーは、大人へのエネルギーになるに違いない。唐丹は、自然に恵まれている。自然は、人に良いことも、悲惨な事も、もたらす。

唐丹からの帰路、釜石線の車窓から2時間近く、山や林を眺め、美しく見飽きない風景が印象に残る。晩秋の紅葉、、、遠く連山の頂きにみえる白雪。

人は、自然に癒され、生かされている。児童達も、自然の中でこれからも困難を乗り越え、生き生きと成長して欲しい。不思議な繋がり、唐丹希望基金に、かかわれた事に感謝したい



☆ハソウの誕生と吹き方 (2018/03/10 公開)

制作：「ハソウを愛する会」坂口憲一郎・ハソウ製造：備前焼須恵器窯元 好本敦郎

編集：林 周行

「笛壺 ハソウを愛する会」の坂口憲一郎さんが作成された動画です。

ハソウの制作風景と吹き方の簡単な説明が、計4本の動画にまとめられています。

1/4～3/4 でハソウを制作されているのは備前陶芸家の好本敦郎さん、4/4 で吹き方を説明されているが坂口憲一郎さんです。

- ◆ハソウの誕生と吹き方 1/4 - 制作風景 1/3 <https://www.youtube.com/watch?v=D4RaABxqxq4>
- ◆ハソウの誕生と吹き方 2/4 - 制作風景 2/3 <https://www.youtube.com/watch?v=1Ay3M89P1bY>
- ◆ハソウの誕生と吹き方 3/4 - 制作風景 3/3 <https://www.youtube.com/watch?v=ekQpaOkZtRY>
- ◆ハソウの誕生と吹き方 4/4 - 吹き方 <https://www.youtube.com/watch?v=fMvjNowhXyI>

「鎮魂の歌とハソウ演奏」 YOUTUBE

- ◆盛岡市長善寺仏教婦人会「鎮魂の歌」 製作 群馬県新生会 柳沢智弘 (2016年8月29日公開)
<https://www.youtube.com/watch?v=zT1VfUrRe-4&feature=youtu.be>
- ◆備前交流会「鎮魂の歌」(2016年10月28日公開) <https://youtu.be/EgR04TMw8S0>
- ◆鎮魂の歌 in NY — エンドロール付— (2017年8月21日公開)
https://www.youtube.com/watch?v=hLW0JvJa_wY&feature=youtu.be
- ◆2018年琴城流大正琴・ブロック大会—「ハソウと鎮魂の歌」2018年9月1日 (2018年9月2日公開) <https://www.youtube.com/watch?v=FLeBd4Sxh4>
- ◆第47回「夏祭「わたしたちの音楽」2018年7月23日(2018年9月13日公開)
<https://www.youtube.com/watch?v=Qeu6wVEfcQQ&feature=youtu.be>
- ◆第48回夏祭「わたしたちの音楽」2019年7月22日(2019年10月30日公開)
https://www.youtube.com/watch?v=3i_G57DVCcQ&feature=youtu.be
- ◆世界へ広がれ「鎮魂の歌」 製作 群馬県新生会 柳沢智弘 (2016年9月5日公開)
「鎮魂の歌」リレー映像14曲 https://youtu.be/XAN_P97ieag

「唐丹中学校生徒へのハソウ贈呈、2021年3月終了」

2022年から学校に唐丹希望基金の象徴であるハソウ(大1個)を2030年まで贈ります。現在、新型コロナウイルス感染蔓延のため、交流が絶たれていますが、感染収束後「鎮魂と平和」を願い、生徒たちと一緒にハソウと共に「鎮魂の歌」を歌いたいと願っています。



ハソウ贈呈：「ハソウ継承者証書」を添えて

◆「ハソウと共に鎮魂の歌」演奏地



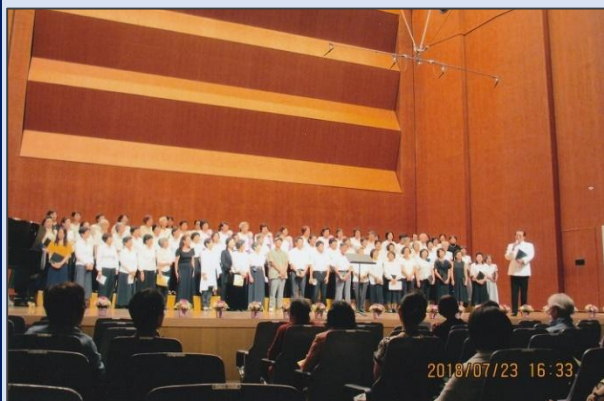
「岩手県盛岡市 長善寺仏教婦人会」



「京都きんこうファミリーコンサート」



「備前市 備前交流会」



「岡山市 コールおかやま定期演奏会」



「京都 アンサンブルコスモス/コール岡山/唐丹希望基金有志」

アメリカ・カナダ訪問 2017年6月12日(月)～6月19日(月)

◆「鎮魂の歌 IN NY」 https://www.youtube.com/watch?v=hLW0JyJa_wY&feature=youtu.be



「Niagara Falls Nature Club」



アメリカ NY バッファロー『日本のメロディーミニコンサート』



「点と線」で結ばれた「ハソウ」の響き

～ハソウ、アメリカ大陸に渡る～

坂口憲一郎（岡山市在住）

「平安」と銘打ったハソウを携えて、東日本大震災支援のお礼の気持ちを込めて、6人で、アメリカ・バッファローとカナダ・ナイアガラの町を訪れた。早朝のナイアガラ瀑布で、滝の音に負けじとハソウを吹き鳴らし、カナダのネイチャークラブの野外パーティーでは、大正琴とともに音を響かせ、そして五大湖の一つ、オンタリオ湖畔では、透き通る水が広がる湖面に向かい、「鎮魂と平安」の願いを込めて歌い、吹き鳴らした。ハソウが、「鎮魂の歌」に欠かせぬ響きとなって行くのを感じながら、琵琶湖の30倍の

大きさの北アメリカのオンタリオ湖。湖畔では、かつてフランス、イギリスなどが、土地に住んでいたイロコイ族も含め戦争し、多くの命が失われた歴史がある、石づくりの当時の砦が、湖畔の遠くに見えていた。

ハソウは、不思議な点と線で結ばれている。推理小説「点と線」で知られる作家、松本清張は、芥川賞を受賞した作品「或る小倉日記伝」の中で、「ハソウ」を笛壺の名で紹介しているが、私が、ハソウをアメリカで吹くことになったのは、趣味の備前焼づくりに向かう途中、電車で隣り合わせになった人との出会いに始まったのである。その方から、、、人から人へ、、、線となり、多くの出会いが生まれ、アメリカ、カナダへの旅へととなった。私の好きな言葉、「今やらねばいつできる。わしがやらねば、たれがやる」という彫刻家、平櫛田中さんのことばを大事にして、これからもハソウの歴史を大切に、野次馬根性で、多くの人に会えることを楽しみにしたい。

第1回「鎮魂と平和研修」

英連邦戦没捕虜追悼礼拝で唐丹中 生徒と共にハソウ献奏

2024年8月3日

<https://photos.app.goo.gl/v40aJQh5Nh63yuTj6>



2016年4月から始めた「鎮魂の歌巡礼の旅」を機に「ハソウプロジェクト」発足。同年9月、「鎮魂の歌 巡礼の旅」で上京した際、岡山に次ぎ東京で上映中の、ドキュメンタリー映画「クワイ河に虹をかけた男」を鑑賞。館内には鼻水をすする音が響き渡るほど、旧日本軍の残忍な戦争映像の数々が映し出されました。

この映画は、陸軍通訳として従軍した永瀬隆さん（1915-2011）の、旧日本軍の犯した戦

争行為に対する贖罪と和解に生涯を捧げた、20年の記録映画でした。アジア太平洋戦争下、旧日本軍が建設した泰緬鉄道。妻 佳子さんと二人三脚で、135回も贖罪と和解のためにタイを訪問し、クワイ河鉄橋で元捕虜と旧日本軍関係者の和解の再開事業を成功させました。

「平和を守り抜くのは、今を生きる私なのだ」と心揺さぶられ、今回 この思いを胸に、唐丹の生徒達と共に「英連邦戦没者捕虜追悼礼拝」に参加しました。多くの方々の理解と協力で実現した「鎮魂と平和研修」です。共に **“平和を創りだす道”**を歩みたいものです。（高館千枝子）

今後の「ハソウ プロジェクト」計画（予定）

英連邦戦没捕虜追悼礼拝でハソウ献奏：会場 横浜市保土ヶ谷区狩場町

（日 時：毎年 8月第1土曜日午前11時～行われます。）



- ◇2025年 ・ハソウ寄贈：唐丹小学校 ・第2回「鎮魂と平和 研修」
- ◇2026年 ・ハソウ寄贈：唐丹中学校 ・第3回「鎮魂と平和 研修」
- ◇2027年 ・ハソウ寄贈：唐丹小学校 ・第4回「鎮魂と平和 研修」
- ◇2028年 ・第5回「鎮魂と平和 研修」
- ◇2029年 ・第6回「鎮魂と平和 研修」

（2030年3月末 唐丹希望基金、一切の活動を終了します。）